

オプトアウト

日産厚生会玉川病院に入院された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しています。本研究に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究課題名	当院における早期栄養介入管理の実際
当院の実施責任者(所属)	矢口直美(栄養給食科)
他の研究機関	なし
本研究の目的	一般的に、ハイケアユニットにご入院される、重症の患者様におきましては、感染症や創傷などが原因で炎症反応が高値であることが多く、筋肉量が減少しやすい状況(体たんぱくの異化が亢進)にあります。また、非常にやせており、食事がとれていない患者様の場合、入院後に急に栄養を投与すると、体内のミネラルなどのバランスがくずれること(リフィーディング症候群)があります。そのため、重症の患者様にとっては、適切な栄養管理が必要と考えられています。しかし、実際の臨床現場では、命にかかわる治療が最優先されるため、栄養管理の優先度が低くなることもあります。近年、「日本版重症患者の栄養療法ガイドライン」が発表され、重症病態に対する治療を開始した後、早期(遅くとも48時間以内)に経腸栄養を開始することが推奨されるなど、重症患者における栄養管理の重要性が認識されてきております。このような流れを受け、当院でも2022年8月より管理栄養士のハイケアユニットへの配置を開始し、栄養療法が必要な患者様に対し、入室後、迅速な栄養管理をおこなってまいりました。本研究は、これまでの活動を振り返り、効果や課題を検討し、今後の栄養管理の質向上に役立てることを目的としております。
調査期間	倫理委員会承認後から2024年3月まで
研究の方法	2022年8月から2023年3月の間に当院ハイケアユニットに入室し、早期に栄養介入を行った患者様を対象に、電子カルテの記録をもとに、年齢、性別、入院時の栄養状態、在院日数、退院時の状態などを調査し、早期の栄養介入が与えた影響について検討します。
試料/情報の他の研究機関への提供	院外への試料/情報の提供はありません。
個人情報の取り扱い	氏名、IDなど、個人情報に関するものは、情報を外部から遮断され、パスワード管理されたパソコン内でデータを集積し、個人情報を特定できる情報を除いた形で集計しております。また、研究成果は学会で発表しますが、その際も患者様を特定できる情報は利用しません。本研究のために収集したデータは、研究終了後5年間保管し、その後はすみやかに消去いたします。
本研究の資金源(利益相反)	本研究では利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話:03-3700-1151(代表) 担当者:矢口直美